

＜例 3 : 地震学習・訓練編＞

- 1 単元名 地震を想定した避難訓練（特別活動・学校行事）
- 2 ねらい 日本列島は多くの大陸プレートの影響で地震が多いことや、その発生メカニズム、また危険な活断層が多数分布していることを知るとともに、地震による災害から自分の生命を生徒自ら守ることができるようにする。
- 3 想定 授業中に震度6の地震が発生、学級担任・教科担任が第一動作を指示する。3分後、家庭科教室より火災が発生、直ちに校庭に避難する。
- 4 場所 各教室及び校庭
- 5 展開

流れ	学習活動	教師の支援	備考
導入 (10分)	1 地震のメカニズムを知る。 ・地震の発生について考え、話し合う。 ・日本列島は多くの活断層があることを知る。 2 東日本大震災の状況を見聞き、「一番大切なもの」について話し合う。 3 地震が起こる時間帯ごとの対応について話し合う。 ・家庭生活中の場合 ・教室以外の場合 4 避難の仕方について知る。 ・避難経路・場所・方法	○4つのプレート近くに日本は位置し、プレートの沈み込みが続いていることを理解させる。 ○活断層は今後地震を起こしやすいことを教える。 ○自分の生命を守ることが最優先であることを考えさせるとともに、自分自身を守るための知識を身につけさせる。 ○家庭生活中に発生した場合について考えさせる。 ○廊下、特別教室、登下校中等に発生した場合について考えさせる。 ○各学級で避難の仕方について確認する。	日本列島とプレートの関係資料 活断層の資料
展開 (25分)	5 地震発生のお知らせにより机の下にもぐる。 (3分間) 6 火災発生通報により、避難を開始する。 ・教室の窓は閉める。 7 避難場所に避難し、決められた方法で整列する。 ・人員報告 8 学校及び関係機関の担当者のお話を聞く。	○地震のサイレンにより、各教室の教科担任、学級担任が地震発生のお知らせをし、第一動作を指示する。 ○地震は1分間、余震を入れても3分(設定)であることを指導する。 ○本部は3分後に校内放送で「火災発生、避難場所等」を通告し、第二動作を指示する。 消防署に「訓練火災発生」を通報する。 ○出席簿を持ち出し、人員確認をする。 ○「自分の生命は自分で守る」ことを話の中に入れる。	※初期消火体制を考えておく。
まとめ (15分)	9 地震、避難、身の守り方について感想を書く。	○素直な気持ちで書けるような雰囲気を作る。	感想文用紙配布、回収

- 6 評価
- ・地震がいつ起こってもおかしくない状況を理解できたか。
 - ・家庭生活・学校生活で「自分の生命は自分で守る」ことの意味が理解できたか。
 - ・安全な避難態度であったか。

参考：防災教育のための参考資料「生きる力」をはぐくむ防災教育の展開(文部省 H10)